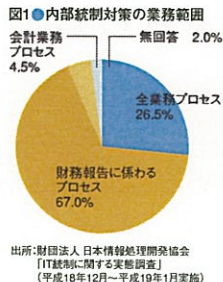


「eB Agent」導入で実現する業務効率化と内部統制への取り組み

内部統制への対応は財務・経理担当者が担う

金融商品取引法に基づき、内部統制報告書におけるガイドラインが決定したことにより、二〇〇八年四月から経営者による内部統制の評価・報告と外部監査人による監査が義務化された。内部統制とは、事業を適切に遂行していくための企業内部の管理体制であり、業務の効率性と有効性を高め、財務報告の信頼性を確保するという目的を達成するための取り組みでもある。

こうした内部統制やリスクマネジメントへの対応は、経理・財務担当者が中心の



な役割を担っている。しかし、経営環境の変化に伴い企業財務を取り巻く環境も激変し、財務・経理担当者の果たす役割は年々増しているのが実情だ。そこに新たに加わった内部統制への対応。とりわけ、財務報告の信頼性を確保することが優先的な取り組みとなる。一方、業務負荷による非効率化が起きている問題が浮き彫りになっており、内部統制対策における、業務の効率性・有効性と財務報告の信頼性は、そのバランスを取ることが求められている。それだけに、経理・財務担当者の果たすべき役割はますます重要視されているといえる。

リスクの低減はITソリューション導入がカギ

経理・財務部門のワークフロー上では、財務会計システムとしてのCMS(キャッシュマネジメントシステム)とERP(人事・給与・経理)システムとを担うようになり、残高や入金明細の照会などの金融業務を一元的に処理できる体制が構築されてき

ている。とりわけCMSは、大手企業のように業務の改善や資金管理の効率化、内部統制への活用を目的に導入が進んでいる。

しかし、日々の経理・財務担当者が抱えている問題は多く、一例として、社内からリモートで銀行取引を行うことができるレコトピア(RecoTopia)やファームバンキング(FB)業務等のオンライン取引においては、効率的に活用できていないのが大きな課題となっており。たとえば、人手を介した運用によって誤操作や不正・漏洩が発生するリスクや、低速の公衆回線を利用することによる業務遅延のリスクも抱えている。また、拠点ごとにバラバラに銀行にアクセスするため手間や時間もかかる。その上、各拠点からの銀行へのアクセス状況を一元的に監視することができないのも深刻な問題といえるだろう。

内部統制管理士でもあるNTTデータ決済ソリューション事業本部の齊藤孝平氏は、

「オンライン取引そのものは安全で便利

な仕組みです。しかし、大手企業のように取引先銀行の数や口座が多くなると、その運用におけるリスクや非効率性が問題となるのです」

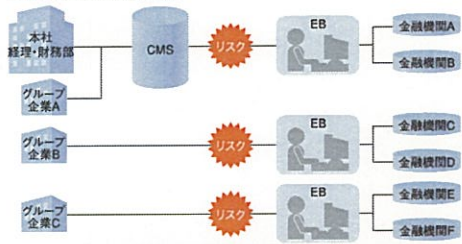
こうしたさまざまなリスクを低減し、効率化を実現するために、本格的なITソリューションの導入がカギを握っている。このITの効果的な活用は、内部統制の四つの目的(財務報告の信頼性確保、業務の効率性・有効性、法令等の遵守、資産の保全)を達成する意味でも欠かせないとは言ってもいいだろう。内部統制対策を円滑に進める一方、資金の効率化を図り、キャッシュフロー経営を実現するためにも適切なIT対応を行うことは極めて重要なポイントなのである。

eB Agent導入による四つの効果

経理・財務部門において、CMSやERPが効率的に運用できていないのは、これら財務会計システムとEBS(ERP)がスムーズに連携していないからであると考えられる。前出の齊藤氏は、

「大企業でも経理・財務担当者が複数のパソコンに向かって銀行にアクセスしているのが現状で、それがEBSリリースを効率的に活用できていない状況を指しているのです。したがって、CMSやERPなどの財務会計システムとEBSがスムーズに

図2 CMSとEBの非連続性



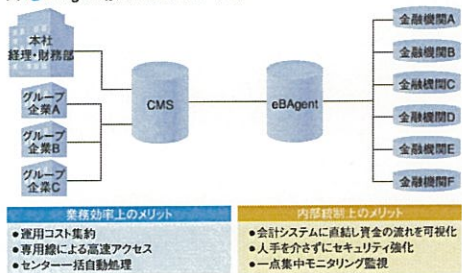
- | 業務効率上のリスク | 内部統制上のリスク |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> オペレーションコストの増大 低速回線による業務遅延 拠点ごとのバラバラに銀行にアクセス(手間や時間がかかる) | <ul style="list-style-type: none"> 会計システムと連携せず資金の流れが不明瞭 人手を介した運用によるミス、不正、漏洩の発生 各拠点からの銀行アクセス状況を一元的に監視できない |

に連携すれば、EB業務も効率化し、内部統制対策のパラメータが図れることとなります」

このように、財務会計システムとEBSが連携して直結したデータ連携が実現すれば、経理・財務担当者が理想とする業務環境への扉を開き、大きく前進することにもなるはずである。

その理想の環境を可能にするのが、NTTデータが提供する「eB Agent」(イービーエージェント)だ。文字通り、企業の経理・財務部門に設置されているEBS端末の代わりに銀行にアクセスするサ

図3 eB Agent導入によるソリューション



- | 業務効率上のメリット | 内部統制上のメリット |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 運用コスト集約 専用線による高速アクセス センター一括自動処理 | <ul style="list-style-type: none"> 会計システムに直結し資金の流れを可視化 人手を介せずにセキュリティ強化 一点集中モニタリング監視 |

ビスである。企業側には銀行にアクセスするための接続パッケージのGatewayが置かれ、CMSやERPといった財務会計システムと高速専用回線によるLAN間接続で、NTTデータのeB Agentセンター、さらには金融機関と直接データ連携を行う。

これによって企業の経理・財務部門は、①振込や入出金の確認資金の集中配分、②給与振込といった各種サービスを一元的に利用できる③高速一括処理が行える、といった業務効率化を実現するメリットを享受することができ、また、

大手企業各社がeB Agentを採用

eB Agentを導入することで、経理・財務部門が抱えている課題を解決することになるのは確かだ。前出の齊藤氏が強調する。

「業務処理の高速化が図れ、資金決済の一元管理ができるだけでなく、資金の流れも見える効果は大きい。つまり、業務の効率性と有効性を高め、財務報告の信頼性を確保するという内部統制の強化を実現することになります」

すでにリーコグループなど大手企業各社がeB Agentを導入し、金融機関との取引における安全性と効率化を実現している。リーコグループではこれまで、金融機関との決済を行うには各グループ企業に設置したパソコンから個々の金融機関にダイヤルアップで接続していた。そのため、現場での管理が煩雑になり、セキュリティの面でもリスクがあった。それが、eB Agentの採用によって、金融機関とのアクセスも専用線で一本化され、管



●お話を伺った方
株式会社NTTデータ
株式会社ソリューション事業本部
決済ソリューションアドバイザー
内部統制管理士
齊藤 孝平 氏

理業務を含めて一元的な決済処理が可能になった。こうしたリーコグループのように、eB Agentを導入した企業の評価は高い。

二〇〇八年四月以降の事業年度から適用される内部統制は、事前に入念な管理体制を構築してこそ意味がある。何か問題が起きてから「内部統制に不備があった」では済まされない。その意味で、業務の効率化とともに内部統制の強化も同時に実現することができるeB Agentは、財務・経理担当者にとって魅力的なITソリューションといえるだろう。